

高梁川流域地域づくり連携推進事業 成果の合意書

事業名 : 障がい児の保護者支援の啓発推進と居場所づくり

グループ名 : 障がい児の保護者の居場所づくり実行委員会

高梁川流域地域づくり連携推進事業は、高梁川流域市町に地域課題を解決するノウハウの拡がりを生み出すことを目的として実施するものである。

本事業の実施にあたり、倉敷市（以下「甲」という。）と障がい児の保護者の居場所づくり実行委員会（以下「乙」という。）は、目指す成果とそれを測る指標を以下の内容で合意する。また、乙は以下の実現を目指して事業を実施し、甲はその進捗状況を確認し、必要に応じて助言又は指導を行う。

1 ノウハウの拡がり（グループ参加団体間でのノウハウの拡がりに、どのような成果があるか）

（1）長期アウトカム（長期の成果）

目標	総社市に常設の「保護者の居場所」ができて、保護者たちが集まり、相談したり仲間を作ったりできるようになる
----	---

（2）短期アウトカム（平成 29 年度事業の成果）

目標	「ライフサポートいちご畑」が、本事業で学んだことをもとに、平成 30 年度の事業計画を立てる
指標	事業計画が次の各項目を満たしているか ①目標を達成するための要件の抽出ができている(人材面・資金面・物質面等) ②団体の能力について現状分析ができている ③課題が明確化されている ④課題解決のための具体的な行動計画が盛り込まれている

（3）アウトプット（平成 29 年度事業の直接の結果）

目標	倉敷市の「うさぎカフェ」にてスタッフ体験および営業終了後勉強会を実施し、「ライフサポートいちご畑」メンバーがそれを受講する(実施日数 5 日間)
指標	受講人数:現状 0 人→事業実施後 10 人

2 地域課題の解決（イベント等に参加した住民に対して、どのような成果があるか）

（1）長期アウトカム（長期の成果）

目標	総社市で障がい児の保護者支援活動が認知されるようになり、事業実施団体への問い合わせや活動参加申し込みが増える
----	--

(2) 短期アウトカム (平成 29 年度事業の成果)

目標	総社市で、障がい児の保護者支援の必要性についての認知・理解が進み、応援してくれる人が増える
指標 1	新聞・テレビ・ラジオ等に取り上げられる:現状 0 件→事業実施後 4 件
指標 2	アンケート結果 ①支えや安心感:現状 0%→事業実施後 80% ②仲間の存在:現状 0%→事業実施後 80% ③保護者支援展開への期待:現状 0%→事業実施後 80%
指標 3	活動に参加, 応援したい人の数:現状 0 人→事業実施後 5 人 参加・応援の例:自らの能力や特技を活かしたもの(ウェブ管理, 居場所の施設メンテナンス, 事務作業の補助, 居場所でのマッサージサービス), 物質的なもの(居場所ですすランチやスイーツの材料の提供(米や野菜, 果物)), 資金的なもの(寄付等)

(3) アウトプット (平成 29 年度事業の直接の結果)

目標	総社市で障がい児の保護者支援に関する勉強会・講演会を開催する
指標	講演会の開催 1 回:現状 0 人→事業実施後 70 人 積算根拠:総社市内の児童関係の事業所が 12 箇所、スタッフ 2 名ずつ参加として 24 名、今回の事業に関わる「いちご畑」のメンバーが 2 名ずつ動員して 20 名、「いちご畑」に現在登録のある保護者のうち半分として 15 名、一般参加 10 名強

目標	総社市で「1 日居場所づくり」を実施する
指標	利用者人数:現状 0 人→事業実施後 30 人 積算根拠:「うさぎカフェ」の1日の利用者数の最大が 33 名という実績から推定

平成 29 年 6 月 26 日

甲 倉敷市西中新田 640 番地
倉敷市
倉敷市長 伊 東 香 織



乙 倉敷市粒浦 217-2
障がい児の保護者の居場所づくり実行委員会
NPO 法人ペアレント・サポートすてっぷ
理事長 安 藤 希 代 子

